東京ジャーミイ金曜日のホタバ
2007年12月7日

メヴラーナ・ジェラーレッディン・ルーミ

親愛なるムスリムの皆様。メヴラーナ・ジェラーレッディン・ルーミーは、イスラーム世界において詩人として、思想家として、学者として、そしておそらくは神秘主義者として知られている著名な人物です。１２０７年にホラサンのベルフという町で生まれたメヴラーナは、１２７３年１２月１７日にコンヤの町で亡くなりました。その棺について、多くの民族、多くの宗教に属する何千もの人々が涙を流しながら歩きました。彼は死後も、その思想、詩、作品、そしてますます高まる名声によって人々の心の中で生き続けてきました。イスラーム文化においても重要である彼の名は、毎年その命日である１２月１７日に、コンヤで行なわれる「シェビ・アルス」（愛する人との出会い）という式典で、思い起こされています。

全ての作品において、人々に徳と秀逸さへの道を教え、よい性質を賞賛し悪を非難するメヴラーナは、その警告の全てをまず自分自身の生き方において適用しました。預言者ムハンマドの道徳が彼の模範であり、思想や行動をそのラインにおいて形成していました。

「命が私の体にとどまっている限り、私はクルアーンのしもべである。

選ばれた、ムハンマドの道の土である。

誰かが私の言葉にこれ以上の何かを付け加えるなら、

私はその人を非難する者である。その言葉をも非難する者となる。」と語ったメヴラーナは、ちょうど月が太陽から輝きを得ているように、その恵みをクルアーンやハディースから得ていることも明らかにしています。

親愛なる兄弟姉妹の皆様。広い心を持つメヴラーナは、女性、男性、子供、老人、病人、健康な人、善、悪、富裕層と貧者、王としもべなどの区別をすることなく、あらゆる人を神の光の一部分と見なしました。人々への振る舞いにおいては、常に寛容さと愛情を見出すことができます。彼が到達した神の愛情を人々とわかちあい、それによって人々もまた彼を愛しました。彼のメッセージは、愛情、平和、兄弟愛、永遠、希望、変化、人間、そしてアッラーの愛情、といったようなテーマにわたっていました。彼はこれらによって、歴史を通して最も名高い詩人、そして最も有名な神秘主義者として知られているのです。

彼が、全ての人へ光をもたらすものとして語った有名な言葉のうち、次のようなものがあります。「気前よさや人の助けになることにおいては流れる水のようでありなさい。慈しみと慈悲においては太陽のようでありなさい。他者の欠点を覆うことにおいては夜のようでありなさい。怒りや苛立ちにおいては死者のようでありなさい。謙虚さにおいては土のようでありなさい。あるがままに見せ、見掛けのままの人でありなさい。」

メヴラーナの人生、思想、そして原則は、彼が生きた時代から今日まで、人々に最大限の影響を与え続けてきました。将来においても、その作品や詩、世界への観点は、「来たれ、あなたが何であろうとも、なお、来たれ」という呼びかけと共に、忘れられることのない声として生き続けるでしょう。

本日のフトバを、彼の呼びかけの真髄であるクルアーンの章句によって締めくくりたいと思います。「これらの信仰した者たちは、アッラーを唱念し、心の安らぎを得る。」（雷電章第２８節）